

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172700284		
法人名	特定非営利活動法人まめなかな		
事業所名	グループホームまめなかな		
所在地	岐阜県高山市赤保木町969番地1		
自己評価作成日	平成30年10月1日	評価結果市町村受理日	平成30年12月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kami=true&ligvosvoCd=2172700284-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ビーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成30年10月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所して18年になりました。認知症状や身体症状が年を重ねる事に重度化しています。利用者様の残された機能を生かせるよう、介護、接し方等、職員間で共有、工夫しながら日々、支援させて頂いております。体調の変化、異変時には提携医に相談、早期に対応、対処しています。移転して1年が過ぎましたが、環境にも慣れました。ホームの周りは自然に囲まれており、四季の移り変わり等、散歩時や二階の窓から感じる事ができます。一つ屋根の下で暮らす家族の一員として共に支え合い、想いや暮らし方を尊重しながら、その人らしい生活が送れるよう支援して行きたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、静かで落ち着いた環境に位置し、窓から、四季を感じられる景色を眺めることができる。地域密着型サービスの意義をふまえ、利用者が住み慣れた地域で生き生きと暮らせるよう、住民との付き合いを大切にしながら、安心・安全で質の良いサービスが提供できるように取り組んでいる。職員は常に利用者の状態を把握し、小さな変化を見逃さないよう努め、早期に医療に繋げることで重度化防止に取り組んでいる。管理者は、職員と利用者の信頼関係が更に深まるよう、常勤職員を多く配置し、接する時間も多く持てるよう配慮している。また、人材育成にも力を入れており、介護福祉士などの資格取得者が多い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を目に付く所に提示し、残された機能を発揮して頂けるよう、利用者様の能力に合わせて介助を行っています。	理念は目に付きやすい場所に掲示してる。入社時には、理念について説明しており、職員は、理念に込められた意味を理解した上で、日々の業務に就いている。地域力を活かしながら、法人全体で協力し合い、理念の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人での活動として月1回のカフェ、感謝祭、夏祭りなど行い、地域の皆様、ご家族様に多数参加して頂いた。	事業所の夏祭りや感謝祭は、地域住民にとっても楽しみの一つであり、毎年多くの参加者で賑わっている。祭りは、地域と利用者とのふれあいの場であり、事業所にとっても、地域住民の情報を得るきっかけともなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症になっても穏やかに過ごす事ができる。会話や出来る事は忘れていないという事を、行事や交流の場や散歩時での世間話などで、理解して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議開催時に、状況報告や活動内容など説明している。質疑応答で頂いた意見を参考に職員で話し合い運営している。	運営推進会議は、法人のグループホームが合同開催している。同町内の会長、隣町の町内会長の出席も得ており、様々な意見が出され、地域の情報や課題を共有できる場ともなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議へ参加して頂いた時や、保険者(高山市主催)の会議や交流会、イベント等に積極的に参加し、相談できる関係性が築けています。	市の担当者とは、電話や窓口で近況報告をするなど、気軽に相談できる関係であり、地域全体の福祉サービスについても話し合いながら、協力関係を築いている。また、市内の介護施設関係者が集まる事業者連絡会にも参加し、意見交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束などについて、ミーティングの中で学習会を開催し、全員が理解している。身体拘束をしない介護に取り組んでいる。説得より納得していただけるよう話かけている。	法人全体で身体拘束廃止委員会を毎月開催し、事例検討を行っている。身体拘束をしないケアを第一とし、利用者の思いや行動を理解するよう努め、安全に配慮した対応方法を工夫している。また、それらを全職員で共有し、実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングや勉強会等で、虐待防止について学んでいる。スタッフは常に虐待防止に努めている。		

岐阜県 グループホーム まめなかな

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、ミーティングの中で学ぶ機会を持ちます。必要時には活用できるよう取り組みます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、丁寧に説明を行い同意を得ています。改定などの際にも説明を行い同意を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方には、来所時や電話を頂いた時などに意見を頂き、運営に反映できるよう取り組んでいます。	訪問時や電話等で、家族と連絡を取り合い、意見や要望を聞いている。また、3ヶ月に1度の便りでも、利用者の思いや日常生活の様子を家族に伝え、意見や要望を出しやすくする工夫をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティング時や申し送り時、又は個別にスタッフの意見を聞き入れ、介護業務及び施設運営に反映されるようにしている。	管理者も介護の現場に入り、職員と一緒に働きながらその都度意見を聞いて対応している。職員の意見や要望等を、ミーティングや申し送り時に出し合い、検討しながら職場環境の改善につなげ、サービスの質の向上や運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤続5年以上の方には、主任制度を設ける。勤続年数での表彰の機会を設けている。資格をとりやすい環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会があれば可能な限り、参加できるようにしている。2年以上の方には、認知症介護実践者研修やリーダー研修などを受けて頂くようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や、社会福祉協議会などと交流し、講習会や話し合いの機会を持っている。事業者連絡会へは積極的に参加している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人と会話をしながら、要望や意見を伺い、安心して頂けるよう信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望、悩み等話を伺いながら、より良い信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族、ケアマネージャーと話し合い、必要としているサービスを見極めて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族のように接しています。コミュニケーションを図り、本人様ができる事を一緒に行いながら、信頼関係を深めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	イベントの参加や、気軽に面会に来てくださる雰囲気作りに努めている。情報交換をしながら、お互いに支えていく関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の他、親戚、友人、近所の方の面会の機会が増えている。馴染みの場所には、本人やご家族との意見を踏まえて、その時の精神、身体状態を見ながら出かけて頂くよう支援している。	管理者と職員は、利用者と繋がりのある人たちが、気軽に訪問できる雰囲気づくりを心がけ、馴染みの関係継続を支援している。定期的に訪れる音楽療法士や、地域の「踊りの会」の人たちとも馴染みとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	難聴や認知症状の影響で、コミュニケーションが上手く図れない利用者様もみえます。孤独にならないよう職員が利用者様の間に入り、コミュニケーションが図れるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所、病院と連帯し、その方が必要とされるケアができるよう、相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望や意向を把握し、利用者様が生きがいを持って過ごす事ができるよう支援している。困難な場合は表情などで思いを、くみ取っている。	利用者の思いや意向を、日々の関わりの中で把握し、本人の希望に沿った支援ができるよう、職員間で情報を共有している。声掛けのタイミングで、利用者の気分が変わってしまうこともあるため、接し方には特に注意を払っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らし方など、本人様、ご家族様、知人の方に話をお聞きし、把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、健康状態の観察を行い、個別に現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送りや月1回のミーティング等で、利用者様の小さな変化でも意見を出し合い、話し合いを行っている。ご家族様の意見や、希望も反映できるように介護計画を作成している。	介護計画作りは、家族の訪問時や電話で意向を聞き、職員や医療関係者の意見も取り入れて作成している。利用者の現在の状態を反映させた介護計画を作成し、家族には支援内容を丁寧に説明して、理解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に毎日の様子など、介護記録に記しています。職員間で情報を共有、実践できるように申し送り、介護計画の見直しにいかしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームの他、有料老人ホーム、小規模多機能型居宅介護を持ち、利用者様の要望に応じてサービスが選択できるように体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全に配慮し、できるだけご本人ができる事をやって頂き、生きがいを持てるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医師の往診があり、体調の変化の把握をし、適切な医療を安心して受けられるよう支援している。	入居時に、かかりつけ医と緊急搬送先について確認し、希望に沿うようにしている。協力医以外の医療機関への受診は家族が行うが、利用者の日頃の状態が分かる情報を文書や口頭で説明し、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師と訪問看護ステーションと連携しています。緊急時に対して適切な受診や、看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	職員の病院への訪問や、病院関係者との情報交換等、関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針は、ご家族様に希望を聞いている。状態の変化をご家族に報告し、提携医、ご家族、職員間で話し合い、方針を共有し対処している。	終末期の支援については、利用者の状態変化に応じ、その都度、家族の意向を確認している。事業所の方針に沿って、医師と連携しながら可能な限りの支援を行っている。職員は看取り介護の勉強会で、ケア方法や心構えを学びながら、支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故に対応できるように、講習会等を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害訓練は定期的に行っています。火災や地震、水害時等の避難、誘導訓練を行っている。法人全体での訓練も行っている。	災害訓練は定期的実施し、利用者が階段を使って避難したり、非常食の試食体験を行うなど、地域の協力を得ながら行っている。また、行政の助言も得ながら、様々な災害に向けて、対応方法を検討している。	災害時の避難計画や防災マニュアルを見直し、職員への周知を徹底させ、連携体制の強化に期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけの重要性、傾聴する姿勢の大切さを、日頃から話し合いを行い、方言でコミュニケーションを図っている。	職員は、常に声のトーンや語尾に配慮しながら接している。長期の利用者であっても、馴れ合いになることなく、礼節を持ってケアにあたるよう心がけている。また、馴染みのある方言でコミュニケーションを図りながら、笑顔で温かい対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が自己決定、自己選択ができるように日頃から信頼関係を築き、声掛けの仕方など工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日のケアや生活援助が、職員の都合を優先する事なく、利用者様の希望や状況に合わせた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己選択ができなくなっている中、自分が好きな服を選んで着られるよう見守りながら支援している。化粧をされる利用者様もみえます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際は職員が間に入り、会話をしながら楽しい雰囲気の中で食事をして頂いている。食事の準備や片付けは、無理のない範囲で手伝って頂いている。	利用者は、職員と会話しながら食べることが、毎日の楽しみの一つになっている。また、おはぎやお好み焼きなど、利用者同士が協力しながら作ったり、その日の食事を弁当にして、外食気分を味わうなど、「食事の時間」を大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の食事量を確認し記入している。摂取量が少ない時などは、捕食や栄養剤などで補っている。水分摂取は食事やおやつ以外にも、細目に提供するよう心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、毎食後に声かけし行っています。利用者様毎に対応し、口腔内の清潔を保つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の習慣、行動パターンを把握し定期的なトイレ誘導を行っている。紙パンツなどの使用を少しでも減らせるよう、トイレでの排泄や、自立に向けた支援を行っている。	トイレでの排泄を継続できるよう、利用者の排泄パターンを把握し、声掛けと誘導を行っている。パッド交換もトイレで行い、排泄用品の削減につなげながら、トイレでの排泄を習慣化できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便管理を行っている。慢性の便秘症の方には、医師の診断の下、下剤を服用して頂いている。水分を多くとる、運動を行うなどし予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴日を設けています。入浴前に利用者様の体調等を確認し、利用者様のペースで入浴して頂くよう支援している。	入浴前に、必ず血圧と体温を測り、体調管理に努めている。入浴拒否の利用者の場合は、本人の気持ちを尊重している。また、季節のゆず湯や入浴剤の利用で、温泉気分を味わえるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて休んで頂いたり、夜間不安になられる利用者様には、安心して頂くような声かけなどを行い支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、薬の副作用、追加等も、その都度共有、把握をしている。変化がないか確認、観察し、服薬確認は必ず行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の生活歴など把握し、出来る事や興味のあることを、体調に配慮しながら行っている。気分転換に散歩や、ドライブなどの支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見や紅葉見物の他、天気の良い日には外出の機会を設けています。馴染みの場所や、お墓参りなど、ご家族の協力を得て外出する事ができている。	天気の良い日には、近隣を散歩したり、ドライブがてら花見や紅葉狩りなどへ出かけている。また、法人が実施しているカフェに出かけ、地域住民と交流している。家族と一緒に外食に出かけたり、一時外泊する利用者もある。	

岐阜県 グループホーム まめなかな

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員が頼まれる事がほとんどで、ご本人が欲しい物がある時等、希望があれば同行し見守りながら支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される利用者様には、電話をして頂いている。手紙を書く利用者様はみえない、希望に沿い支援していく。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	敷地内の庭には、花や畑などがあり、自然豊かな環境です。 共用空間は常に清潔を保ち、転倒等危険がないように手すり等の設置の他、常時障害物の有無を確認し、安全な環境を整備している。季節にあった貼り絵など利用者様と一緒に作り、飾っています。	リビングには畳スペースがある。冬は、こたつで食事をしたり、テレビを見るなど、家庭での暮らしを感じさせる空間となっている。階段にセンサーを取り付けてあるが、耳障りな電子音ではなく、不快感のない動物の鳴き声に設定している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様各自、落ち着く場所があり、楽しく話せる利用者様が一緒に座ってみえます。安心して暮らせるよう、調整や環境作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から馴染みの物や、大切にしていた物を持ってきて頂き、使用して頂いています。ぬり絵等の作品や、写真を飾ったり、自分の部屋である事を認識できるよう、居心地よく過ごして頂けるよう工夫しています。	馴染みの家具やテレビを置き、居心地よく過ごせる部屋作りをしている。転倒の可能性が高い利用者の居室には、家族の同意のもと、事務所のモニターで見守りができるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとり出来る事、できない事がある中で、職員が理解し、共有し安全かつ、できるだけ自立した生活が送れるよう支援している。		